

【子供たちの想い】

現在の生活で困っている

<家族・家庭環境>

- ・家族がバラバラになり、一緒に暮らせなくなった。会いたい時に会えない。
- ・家族との喧嘩が増えた。

<友人・学校関係>

- ・浪江の友だちと会えなくなった。
- ・新しい学校になじめない。
- ・学校が遠くなって不便。
- ・進路のことが不安。
- ・新しい学校の授業についていけない。
- ・部活やスポ少ができない。

<生活環境>

- ・自分の部屋がない、家が狭い。
- ・騒音がうるさい、空気が悪い。
- ・外で遊べなくなった。
- ・地震や津波がまたこないか心配。
- ・浪江の家に帰れない。

<金銭面>

- ・生活費や家のローンが心配。
- ・親が仕事を失い、先のことが心配。

<健康面>

- ・放射能で病気にならないか心配。

将来浪江町にどんな町になってほしいか

- ・震災前の浪江町に戻ってほしい。(安心安全・きれい・住みやすい・活気があるなど)
- ・浪江町がなくならないでいてほしい。
- ・都会らしいまちになってほしい。
- ・原発のない平和なまちになってほしい。
- ・大人になったら自分たちが働いて震災前の浪江町にもどしたい。
- ・いつか戻れるようになったら自分の子供を連れてふるさとに帰りたい。
- ・もう浪江町には戻れない。浪江町は無くなっている。
- ・自分に子供ができたなら住みたくない。

町長へのお願い

<帰町について>

- ・早く浪江町に帰れるようにしてほしい
- ・帰ることは難しい。
- ・別の場所に町を作ってほしい
- ・戻れるか戻れないか明確にしてほしい。

<復興・除染>

- ・浪江町を元の町のように復興してほしい。
- ・除染してきれいで安全な町にしてほしい
- ・除染は無理なので補償してほしい。
- ・中間貯蔵施設を作らないでほしい。

<励まし>

- ・私たちの町を守ってください。
- ・いっしょにがんばりましょう。
- ・嘆かずこれからを考えてください。

<友人・学校・教育関係について>

- ・前の学校の友だちに会える機会、集まる場を設けてほしい、お祭りや運動会など、みんなで交流したい。
- ・塾に通ったり、高校に進学できるように支援してほしい。

<賠償について>

- ・補償をしっかりしてほしい。
- ・ちゃんと賠償するよう国や東電に訴えてほしい。

<住環境>

- ・広い家に住めるようにしてほしい。
- ・新しい家がほしい。
- ・勉強に集中できる部屋がほしい。

<その他>

- ・学校、家にあるものを取りに行きたい。

【子供たちの想いに応えるために必要なこと】

全ての町民の暮らしの再建

<生活全般>

- ・少しでも家族が集まって暮らすことができるように、友達や知り合いと集まって暮らすことができるようにしていくことが必要ではないか。
- ・子どもたちなりに、部屋の数、広さ、迷惑をかけない壁の厚さなどを気にしている。質の高い住宅を確保していくことが必要ではないか。

<友人・学校関係>

- ・浪江の友だちと集まることができるように、交流会、同級会等、浪江の絆を絶やさぬような仕掛けを充実させていくべきではないか。
- ・学習面での不安、習い事の中断など、学びの環境が損なわれていることから、塾や習い事などに対する金銭面でのサポートや学習支援を行っていくことが必要ではないか。

<健康面>

- ・子どもたちなりに放射線に対する不安がある。不安を軽減するため、検査体制、医療措置の充実や、放射線に関する正しい情報や知識を普及することが必要ではないか。

<金銭面>

- ・子どもたちも生活費を心配している。確実な賠償により生活面での不安を軽減していくとともに、親世代の就業、雇用の場の確保を図っていくことが必要ではないか。

ふるさと なみえ の再生

<除染>

- 「放射能のない安全なまち、安心して暮らせるまち」といった意見が多くあった。
- 選択肢では「放射線のせいで病気にならないか不安」との意見も多くある。
- 除染して、元のままに戻して欲しい、早くして欲しいという意見が多い一方、まちの姿が変わってもしっかりと取り組んで欲しいという意見、補償を優先して欲しいとの意見もある。
- 除染の速度も大切ではなるが、子どもたちの不安もあることを踏まえ、子どもたちが安心とすることができるような水準での除染が必要とされているのではないか。

<まちづくり>

- 「震災前のような浪江町に戻って欲しい」という意見が多かったほか、「きれいで安全な町」「自然豊かな町」「明るく賑わいのある町」という意見が多く存在。
- 浪江町がなくならないでいてほしい(双葉郡の浪江町という意味が多いが、他の地域であってもみんなが集まって暮らせる場所としての町という意味もある)
- 復興にあたっては震災前の浪江町(子どもたちが浪江と感じられるまち、伝統文化、町なみ、スーパー、自然)を目指しつつ、安全・安心でき賑わいのある町へと目指していくことが必要ではないか。

<ふるさとへの想いについて>

- 早く浪江町に帰りたいとの声が多い一方、もう帰れない、住みたくないとの声も存在する。また、大人になったらふるさとに帰りたいとの声もある。
- 数が多いから帰町すべきという視点で捉えるのではなく、子どもたちの想い・願いとして受け止めることが必要ではないか。長きにわたって町民が築き上げてきたふるさと浪江町に対して、子どもたちの多くが大切に感じていることの大きさを、我が国全体として受け止めるべきではないか。